

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370061

研究課題名(和文)緩和ケア医療チームで活躍できる実践的仏教活動者(ビハラ僧)育成の応用研究

研究課題名(英文)An applied research for training Vihara-monks playing active parts in palliative medical teams

研究代表者

早島 理 (HAYASHIMA, Osamu)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：60108272

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：1. 終末期緩和医療チームで活躍できるビハラ僧を育成するため、龍谷大学実践真宗学研究科の教育プログラムに「医療者と仏教者の協働」を組み込み、さらに同研究科で実施している「臨床宗教師」育成のプログラムとも関連させて受講者の知見を深め、臨床実習に対応することができた。2. 終末期緩和医療の患者家族が、医療者と仏教者やビハラ僧に要請する具体的な内容を研究し共有するため、札幌、広島、鹿児島、中津で市民公開講を開催し、また日本印度学佛教学会学術大会でパネル発表をして、研究成果の発表と意見交換を行った。さらにその成果を報告書(第1-3篇)として刊行配付し、市民や研究者と知見や課題を共有することができた。

研究成果の概要(英文)：In order to train Vihara-monks playing active parts in palliative medical teams, we have begun the lecture “co-operation of medical workers with Buddhist monks in palliative medical teams” in the curriculum of Ryukoku University Graduate School of Practical Shin Buddhist Studies. As a result, many students have become talented resource in palliative medical teams. Furthermore four times we held lectures “Co-operation of medical workers with Buddhist monks in palliative medical teams” open to the public, in Sapporo, Hiroshima, Kagoshima and Nakatsu. In these lectures we presented effects of our studies and exchanged ideas of the co-operation with audience. Then we have published reports every year and distributed them to person concerned.

研究分野：人文学

キーワード：医療者と仏教者の協働 終末期緩和医療 終末期医療に関する公開講座 死に逝く道しるべ 臨床宗教師とビハラ僧 生命科学の生命と生老病死のいのち 生老病死みないのち

1. 研究開始当初の背景

難治性の重篤な患者、終末期状態の患者とその家族を支える緩和ケアには患者・家族のスピリチュアルな苦悩を支えるために宗教者・仏教者の果たす役割が重要であり、その役割を担う宗教者、特に宗派をこえた仏教僧侶(以下、ビハーラ僧)の育成が望まれて久しいが、具体的な方策を模索し始めた状況であった。また「臨床宗教師」育成もその緒に就いたばかりであり、この分野での実践的研究が要請されていた。

2. 研究の目的

難治性の重篤な患者、終末期状態の患者とその家族を支える緩和ケアには患者・家族のスピリチュアルな苦悩を支えるために宗教者・仏教者の果たす役割が重要であり、その役割を担う宗教者、特に宗派をこえた仏教僧侶(以下、ビハーラ僧)を育成するために、本研究は、仏教思想に基づき、医療者と協働してチーム医療の一端を担う実力を備えたビハーラ僧の育成とそのビハーラ僧の実践活動(以下、ビハーラ活動)を目的とする。具体的には、「生老病死みないのち」の視点から1. ビハーラ僧を育成する大学教育プログラムを開発し、2. ビハーラ僧による緩和ケア病棟・施設でのビハーラ活動への応用を考察する。

3. 研究の方法

終末期緩和末期状態の患者とその家族を支える緩和ケアには患者・家族のスピリチュアルな苦悩を支える宗教者特に仏教ビハーラ僧の役割は重要である。このビハーラ僧育成を実現するための研究方法は以下の如くである。

1) 思想レベルでの研究

「生老病死みないのち」・「終末期医療」・「医療者と仏教者の協働」をキーワードに、仏教経典とくに阿含経典における「いのち」の理論と「治療と看まもり」の考え方を再検討す

る。

2) 実践レベルでの研究

医学医療教育との連携活動

毎年滋賀医科大学4回生(医学科・看護学科)の「医の倫理、宗教学、看護倫理」の合同講義(担当:室寺・長倉・早島)に、学外から龍谷大学大学院実践真宗学研究科(以下実践真宗学研究科)院生や全国からビハーラ活動者が参加出席する。医学を学ぶ学生とビハーラ活動を志す者が同じ学びの場で受講し意見交換を行い、緩和ケアに「医療者と仏教者の協働」が必要であることなど相互理解を深める。

医療者と宗教者の協働に関する実践活動
財団法人大日本仏教慈善会あそかビハーラ病院(京都府城陽市、以下ビハーラ病院)において、滋賀医科大学生と実践真宗学研究科の院生・全国のビハーラ活動者による、終末期緩和医療の臨床実習を実施する。

3) 教育カリキュラムに関する活動

ビハーラ病院における合同実習の成果をもとに、「ビハーラ僧育成プログラム」を編成作成し、実践真宗学研究科のカリキュラムに組み込み実施する。また定期的に研究会を開催し、基本課題「いつまでどのように生かしますか」という正解のない問題を、仏教思想の視点から検討する。

4) 市民公開講座に関する活動

以上の研究成果をもとに、医療者・仏教者(ビハーラ僧)・患者と家族による、地域研究会を市民公開講座として開催し、その内容を公刊する。

4. 研究成果

1) 思想レベルでの研究

阿含経典や大乘経典における「いのち」の理論と「治療と看まもり」の考え方を再検討し、特に看守りについて慈悲の思想の重要性を理論的に解明した。その成果は、室寺義仁「『十地経』の唯心と大悲」(密教文化236)、早島理「自浄其意ということ」(龍谷大学真

宗学 134) などとして発表された。

2) 実践レベルでの研究

医学医療教育との連携活動

科研年度内に毎年滋賀医科大学 4 回生(医学科・看護学科)の「医の倫理、宗教学、看護倫理」の合同講義(担当:室寺・長倉・早鳥)を実施し医学生とビハーラ活動を志す者が同じ学びの場で受講し意見交換を行い、緩和ケアに「医療者と仏教者の協働」が必要であることなど相互理解を深めることができた。

医療者と宗教者の協働に関する実践活動

科研年度内に毎年ビハーラ病院において終末期緩和医療の臨床実習を実施し、終末医療の現状を学ぶことが出来た。

3) 教育カリキュラムに関する活動

ビハーラ僧育成に関するプログラムを、実践真宗学科のカリキュラムに反映させ、特別講義として実施した。さらに平成 15 年度日本印度学佛教学会でパネル発表を行い、医療者と仏教者の協働についての教育カリキュラムのあり方を討議した。

4) 市民公開講座に関する活動

研究成果を社会に還元し、医療者・仏教者・市民及び患者家族と「医療者と仏教者の協働」についての知見を共有するため、科研年度の3年間に計4回の市民公開講座を開催した(札幌市、広島市、鹿児島市、中津市)。またその内容を報告書にまとめ、関係者に配付した。さらに市民公開講座のアンケートデータなどから終末期緩和医療において、患者・家族が仏教者・ビハーラ僧に期待する内容(終末期患者家族の傍らに居ることの重要

性など)が提示された。また市民公開講座で医療者と仏教者の討論を通じて、急性期医療・慢性期医療・終末期医療のどの段階でも医療者と仏教者の協働の必要性が論じられた。以上の成果は、個々の論文及び科研報告書の「はじめに」や「アンケート報告」に詳しい。

また中津公開講座を機縁として、終末期緩和ケアについて医療者(中津胃腸病院緩和ケアスタッフ)と仏教者(下毛中組ビハーラ僧)が中津胃腸病院を会場に定期的な共同研修会を開催しているとの報告を受けている。これも本研究の成果の一つと受け止めることができよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

早島理、「作願と聴聞と」、龍谷大学真宗学、136(1-26)、査読有、2017

室寺義仁、「『十地経』の唯心と大悲」、密教文化、236(25-42)、査読有、2016

早島理、「自浄其意ということ」、龍谷大学真宗学、134(1-25)、査読有、2016

横尾美智代、「集団のいのち、ひとりのいのち」、真実心、37(47-83)、査読無、2016

早島理、「終末期緩和医療で医療者と協働できる仏教者の考察」、印度学仏教学研究、64-2(772-773)、査読有、2016

室寺義仁、「信と無明」、印度学仏教学研究、63-2(118-125)、査読有、2015

早島理、「捨命住壽ということ」、山口真宗教学、

26 (70-130)、査読無、2015

横尾美智代、「ネパールの人々に寄り添う」、

真実心、36集(11-47)、査読無、2015

早島理、「仏教的生命観から見た先端医療」、宗
学院論集、86(1-37)、査読無、2014

早島理、「脳死臓器移植再考」龍谷大学真宗学、
129・130(31-51)、査読有、2014

[学会発表] (計5件)

早島理、「傾聴と聴聞と」、龍谷大学 真宗学会、
2016,11,15、龍谷大学 大宮学舎

早島理、室寺義仁、横尾美智代、長倉伯博、「い
のちを見つめ、いのちに寄り添う」、中津公開講座
2016,10,1、中津市長久寺

早島理、室寺義仁、横尾美智代、長倉伯博、「い
のちの終わりを見つめ合う」、鹿児島公開講座
2016,5,28、鹿児島市よかセンター

早島理、室寺義仁、横尾美智代、長倉伯博、「い
のちの終わりを見つめ合う」、広島公開講座、
2015,10,3、西本願寺広島別院

早島理、室寺義仁、横尾美智代、長倉伯博、「い
のちの終わりを見つめ合う」、札幌公開講座、
2014,10,18、西本願寺札幌別院

[図書] (計3件)

早島理、長倉伯博、『長生きのゆくえ』、光明山
福住寺(1-143)、2016

長倉伯博、『ミトルヒト』本願寺出版(1-126)、
2015

その他

早島理、室寺義仁、横尾美智代、長倉伯博、
『いのちの終わりを見つめ合う』、第一～三篇』科
研費公開講座報告書、2015, 2016, 2017

[産業財産権]

特になし

[その他]

ホームページ等
特になし

6. 研究組織

(1)研究代表者

早島 理 (HAYASHIMA, Osamu)

龍谷大学・文学部・教授

研究者番号：60108272

(2)研究分担者

室寺義仁 (MUROJI, Yoshihito)

滋賀医科大学・医学部・教授

研究者番号：00190942

横尾美智代 (YOKOO, Michiyo)

西九州大学・健康栄養学部・教授

研究者番号：00336158

長倉伯博 (NSAGAKURA, Norihiro)

滋賀医科大学・医学部・非常勤講師

研究者番号：6043714